

様

比嘉京子 沖縄県議会議員 玉那覇淑子 北谷町議会議員
翁長久美子 名護市議会議員 喜屋武すま子 北中城村議会議員
伊敷郁子 糸満市議会議員 屋良照枝 中城村議会議員
比嘉麻乃 中城村議会議員 當間左知子 浦添市議会議員
大城むつみ 糸満市議会議員

待機児童解消に向けた保育士配置基準の見直しと 公定価格の引き上げを求める要請

我が国において、保護者が納税の義務を果たしているのにも関わらず、保育所（園）に入れる子と入れない子がいます。待機児童という言葉はいつからあるのでしょうか。福祉国家・フィンランドでは言葉そのものはありません。沖縄県においては待機児童がいるにもかかわらず、保育所は定員割れを起こしています。主な原因は保育士不足にあります。待機児童を解消するには、国において「保育士配置基準の見直し」と「公定価格の引き上げ」が不可欠です。

保育現場にとって、保育士配置基準の改善は長年の課題です。国の配置基準は、0歳児3人に対し保育士1人、1・2歳児6人に対し1人、3歳児20人に対し1人、4・5歳児30人に対し1人と定められています。1・2歳児の配置基準は50年以上、4・5歳児にいたっては70年以上も据え置かれたままです。保育士1人がみる子どもの数を減らすべきです。さらに、配置基準は8時間保育を前提としていますが、保育所の実際の開所時間は11時間を超えています。この配置基準では、子どもの安全を守るには十分とは言えません。そのため、保育現場では、国の配置基準以上の保育士数を確保しなければならない状況になっています。感染症や自然災害が発生した場合など、どのような状況にあっても子どもの安全と質の高い保育を格差なく保障するために、国の保育士配置基準の見直しが必要です。

また、保育士は高い専門性が求められ、責任の重い仕事であるにもかかわらず、平均年収は全産業の平均より著しく低くなっています。子どもの育ちを保障するだけでなく、保護者の就労を支援し、さらに保護者への指導や地域の子育てを支援する役割も担っています。それらを果たそうとすればするほど長時間過密労働になり、大きな負担になっています。このような労働環境に見合った処遇が保障されていないため、保育現場では保育士の確保と定着が大きな問題になっています。国におかれては、公定価格の人件費を見直し、賃金水準を引き上げるよう要望します。

記

1. 保育士配置基準を以下の通り見直すこと。
0歳児 3：1から2：1へ 1歳児 6：1から3：1へ 2歳児 6：1から5：1へ
3歳児 20：1から10：1へ 4・5歳児 30：1から15：1へ
2. 公定価格における地域区分を見直すこと。
3. 公定価格における保育士の賃金水準を引き上げること。

以上